

30 ~ 140Vシリーズ

| No. | 項目 | 規格 | 試験方法 |
|-----|------------|--|--|
| 1 | 使用温度範囲 | - 30 ~ + 125 | 最大電圧を印加した時、使用可能な周囲温度範囲。 |
| | | - 40 ~ + 125 | 所定の電圧（30V/51Vシリーズ：16V，60Vシリーズ：30V，140Vシリーズ：140V）を印加した時、使用可能な周囲温度範囲。 |
| 2 | 実装後の保存温度範囲 | - 40 ~ + 125 | ポジスタ [®] を実装状態で保存可能な保存温度範囲。 |
| 3 | 抵抗値（R25） | 定格値を満足します。 | 周囲温度25において、最大電圧3分印加後、室温（25）に2時間放置した後、1.0Vdc以下（測定電流10 mA以下）の直流端子電圧を用いて測定する。（リード線のキンク2mm以内に測定端子を接続し、4端子法で測定すること。） |
| 4 | 耐電圧 | 異常はありません。 | 周囲温度25において、ポジスタ [®] の端子間に、0Vより徐々に印加電圧を上昇させ、最大電圧の120%の交流電圧を180±5秒間印加する。（ただし、直列に保護抵抗を接続し、ポジスタに流れる突入電流を最大電流以下に制限すること。） |
| 5 | 保護電流 | 動作電流以下・不動作電流以上の値を満足します。 | ポジスタ [®] に流れる電流が最大となった所の電流。静止空気中において、次ページの「保護電流測定条件」にて電圧を少しずつステップ的に3分間印加していき、電氣的・熱的に安定した時の最大電流を測定する。 |
| 6 | 端子引っ張り強度 | リード線は損傷なく耐えます。 | ポジスタ [®] 本体を固定し、各端子の軸方向に荷重4.9Nを徐々に加え10秒間保持する。 |
| 7 | 端子曲げ強度 | リード線は切断しません。 | リード線の引出し軸が、垂直になるように荷重2.45Nを釣り下げ、90度曲げ元に戻し、さらに逆方向に90度曲げ、再び元に戻す。以上の操作を1回徐々に行う。 |
| 8 | はんだ付性 | リード線の円周方向3/4以上で、軸方向に浸したところまで切れ目なく、はんだが付着しています。 | リード線をロジン（JIS K 5902）のイソプロピルアルコール（JIS K 8839）または、エタノール（JIS K 8101）溶液（約25wt%）に5～10秒浸漬し、次に本体の根元から2.0～2.5mmのところまで、235±5のはんだ（JIS Z 3282 H60A）溶液中に2±0.5秒間浸す。 |
| 9 | はんだ耐熱性 | 抵抗変化率 試験前の値に対し：±15%以内 表示は読めます。 | リード線を本体の根元から2.0～2.5mmのところまで、350±10のはんだ（JIS Z 3282 H60A）溶液中に3.5±0.5秒間浸漬する。そして、室温（25）に24±4時間放置後、抵抗値を測定する。 |
| 10 | 耐振性 | 抵抗変化率 試験前の値に対し：±20%以内 表示は読めます。 | 加速度：98m/S ² （10G） 最大振幅：1.5mm 振動：10～500Hz log掃引 互いに垂直な3方向に11分ずつ、24サイクル（合計13.5時間）行う。 |
| 11 | 耐熱性 | 抵抗変化率 試験前の値に対し：±20%以内 表示は読めます。 | 温度125±3の恒温槽に入れ、1000±12時間放置したのち、大気中に取り出し乾布で軽くぬぐい、室温（25）に1時間放置し抵抗を測定する。 |
| 12 | 耐寒性 | 抵抗変化率 試験前の値に対し：±20%以内 表示は読めます。 | 温度-40±3の恒温槽に入れ、1000±12時間放置したのち、大気中に取り出し乾布で軽くぬぐい、室温（25）に1時間放置し抵抗を測定する。 |
| 13 | 耐湿性 | 抵抗変化率 試験前の値に対し：±20%以内 表示は読めます。 | 温度85±3、湿度80～85%の恒温恒湿槽に入れ、1000±12時間放置したのち、大気中に取り出し乾布で軽くぬぐい、室温（25）に1時間放置し抵抗を測定する。 |

次ページに続く 

☐ 前ページより続く

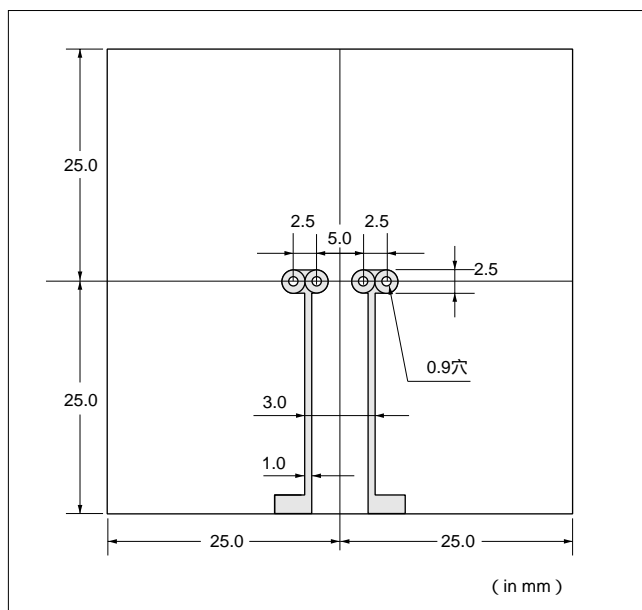
保護電流測定条件

1. 実装基板

材質：紙フェノール片面プリント基板

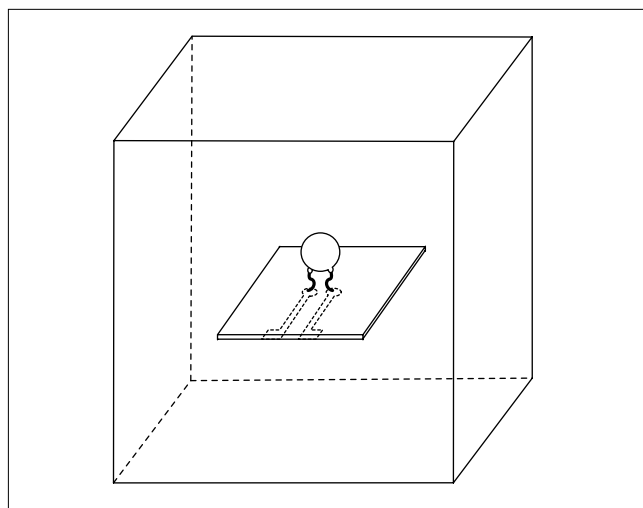
寸法：50×50×t1.6mm

スルーホール部：銅箔なし



2. 実装および測定条件

ポジスタ®を基板に実装し、ランド部にてはんだ付けした後、
風防のため150mm四方のカバーをかぶせる。



3. 測定回路

